

# 第10回宮城県産業振興審議会商工業部会

日 時 平成29年11月6日（月）  
午後1時30分から3時まで  
場 所 宮城県行政庁舎4階 庁議室

## 第10回宮城県産業振興審議会商工業部会 議事録

### 1 開会

#### ■観光課 佐々木主幹

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。開会の前に配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に資料として、次第、出席者一覧表、座席表、資料1「第4期みやぎ観光戦略プラン最終案」、資料2「第4期みやぎ観光戦略プラン最終案【概要版】」、資料3「産業振興審議会及び商工業部会における委員からの意見に対する対応」、資料4として「産業振興審議会スケジュール」を配布させて頂いております。資料の不足がございましたら、お声がけ頂ければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ただいまから第10回宮城県産業振興審議会商工業部会を開催させていただきます。開会にあたりまして、経済商工観光部長の吉田祐幸よりご挨拶申し上げます。

### 2 あいさつ

#### ■経済商工観光部 吉田部長

皆様、こんにちは。大変お忙しい中、商工業部会に御参加頂きまして、誠にありがとうございます。この商工業部会では、以前に中間案をお諮りしたところでございますけれども、今日は最終案についてお諮りをさせて頂くという段取りでございます。この最終案につきましては、先月の10月30日になりますけれども、みやぎ観光創造県民会議がございまして、その中で初めて最終案をお示しさせて頂きまして御審議を賜ったところでございます。この後でございますが、11月20日に予定しております審議会の全体会で御審議を頂きまして、12月には知事へ答申を出して頂き、その答申を受けまして、2月～3月まで議会関係の御説明などを経て第4期プランを決定していくということでございます。

当プランの特徴でございますが、後ほど簡単に御説明申し上げますが、1つは、東北が一丸となって広域観光を行うということが特徴の1つになってございます。国内外の誘客促進を目指すわけでございますが、やはり多くの皆様は、東北全体を周遊されているということもございまして、東北が一丸となって、広域観光の充実、このためのプロモーションなども構成していきたいと考えているところでございます。

また、2つ目の特徴は、観光産業という側面を重視しようということでございまして、誘客重視、観光客が何人来たかということを重視してきていた訳でございますが、やはり消費して頂いて初めて産業になっていくわけでございますので、DMOを組成致しまして、DMOの皆様と共に、地域で消費をして頂けるような商品づくり、商品のプロモーション、そういったこともしっかりと行っていきたいということを記載させて頂いております。

併せて、インバウンド、外国人観光客の誘客にも力を入れていきたいということも特徴として上げさせて頂いているところでございます。私はちょうど昨日まで済州オルレに参加して参りました。済州オルレフェスティバルと言いまして、社団法人の理事長様と事務局長様はお二人とも女性でした。マスコミの政治記者と経済記者のOGの方が、50歳くらいで独立して二人三脚で始めたところ、多くの観光客がブラタモリのように歩いたり、地域で消費していただいたことで、カフェができたり、ペンション

ができたり、新たにルートになったところは地価が上がったりというような事例も出てきました。また、地域の小さな地域市場をルートに入れたところ、その地域市場の売り上げが上がったというようなお話もございまして、工夫の仕方、消費拡大に向けた取り組みに色々ヒントがあるんじゃないかなと思っております。この21日には、知事が済州に参りまして、世界で3番目の済州オルレの協定式に参加し、協定を結ぶ予定となっております。

第4期プランに戻りますと、本日提出致しました最終案でございますが、これまでの会議などで様々な頂いた御意見などを踏まえまして、新しいバージョンとして作成させて頂いたところでございます。本日も委員の皆様から多様な視点からの御意見を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます、私からの御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ■観光課 佐々木主幹

続きまして、本日の定足数でございます。本会議の定足数でございますが、半数以上となっております。本日は委員6名全員の御出席をいただいておりますことから、産業振興審議会条例第5条第2項の規定に基づき、本日の会議は有効に成立していることを御報告させていただきます。また、情報公開条例第19条の規定によりまして、会議は原則公開することとされております。産業振興審議会は平成12年度の第1回の会議の際に「公開する」と決定しておりますので、当部会も公開として進めさせていただきます。

続きまして、今回は8月22日に開催されました第39回産業振興審議会において新しく委員に就任され、初めて商工業部会に出席される委員の方もいらっしゃいますので、本日ご参加の委員の皆様と、同席しております県の職員をお手元の出席者名簿により御紹介させていただきたいと思っております。

はじめに、産業振興審議会商工業部会の委員を御紹介いたします。

東北大学大学院工学研究科教授の堀切川一男部会長でございます。

今回から商工業部会に参加して頂きます、株式会社コミュニナ取締役の笠間建委員でございます。

オフィスアユミトイロ代表の佐々木美織委員でございます。

今回から商工業部会に参加頂きます、株式会社緑水亭若女将の高橋知子委員でございます。

キョーユー株式会社代表取締役社長の畑中得實委員でございます。

有限会社ひらが代表取締役の平賀ノブ委員でございます。

続きまして、県の職員を紹介いたします。

先ほど御挨拶申し上げます、経済商工観光部長の吉田祐幸でございます。

富県宮城推進室長の小野寺邦貢でございます。

観光課副参事兼課長補佐総括担当をしております千坂守でございます。

それでは議事に入ります。会議は、産業振興審議会条例の規定に基づき、部会長が議長となって議事を進めることとなっておりますので、ここからは堀切川部会長に議事進行をお願いいたしたいと思います。堀切川部会長よろしくお願い致します。

### 3 議事

#### (1)「第4期みやぎ観光戦略プラン」の最終案について

##### ■堀切川部会長

本日は、お忙しいところお集まり頂いて、どうもありがとうございました。それでは議事に入らせて頂きます。議題(1)の「第4期みやぎ観光戦略プラン」の最終案について、事務局の方から御説明をお願い致します。

##### ■観光課 千坂副参事

観光課の千坂でございます。いつも大変お世話になっております。本来であれば、課長の梶村から皆様に御説明を差し上げるところなのですが、あいにく急遽、東京出張が入ってしまいまして、代わりに、私の方から説明をさせていただきます。恐れ入りますが、よろしくお願い致します。座って御説明させていただきます。

はじめに、第4期みやぎ観光戦略プランのこれまでの審議経過と今後の予定につきまして、御説明を申し上げます。

はじめに、資料の4、産業振興審議会スケジュールをお出し頂きまして、主に右側でございます第4期みやぎ観光戦略プランのところを御覧頂きたいと思っております。前回7月24日に開催致しました商工業部会におきまして、委員の皆様へ観光戦略プラン中間案を御審議いただき、様々な意見を頂戴いたしました。いただいた御意見への対応方針につきましては、後ほど、資料3を用いて、御説明をさせていただきます。

次に、8月22日に開催されました審議会の全体会におきましても、中間案を御審議いただきました。主な御意見といたしましては、東京電力福島第一原発事故の風評被害や観光産業の在り方、観光地域におけるストーリーの重要性などについて、主な御意見を頂戴したところでございます。

また、9月11日から10月10日には、県民の皆様から意見の募集「パブリックコメント」を実施いたしました。期間中には、1件の御意見を頂戴しております。

内容といたしましては、仙台に東北6県の食や物産に関する拠点施設を設置してほしいというものでございます。12月頃に県の公式ウェブサイト上で回答を含め、掲載させていただきたいと考えております。

また、こちらのスケジュールには記載ございませんが、10月20日の宮城県議会経済商工観光委員会におきまして中間案を御報告いたしました。委員からは東北や県内の域内観光の重要性などについて御意見を頂戴したところでございます。

こういった御意見等を踏まえまして、とりまとめた最終案について10月30日に開催されましたみやぎ観光創造県民会議において御審議をいただき、委員の皆様からは、主に沿岸部のにぎわいの取組、東北の広域観光、欧米豪などインバウンドの新たな市場などの御意見を頂戴したところでございます。

本日の商工業部会におきましては、これまでの議論を元に作成された最終案につきまして御審議いただき、その後、11月20日に審議会の全体会を経て、12月下旬に産業振興審議会会長から知事に答申していただく予定となっております。

次に、前回7月24日の商工業部会で委員の皆様からいただいた御意見への対応につきまして御説明をさせていただきます。資料の3をご覧くださいと思います。前回7月24日の商工業部会及び8

月22日の全体会において各委員からいただいた御意見とその対応方針及びプランへの反映状況について、表にまとめております。

主な御意見ということでご紹介させていただきます。1ページ目のところの番号で言いますと、3-2というところになります。佐々木委員からの御意見の前段部分で「いま宮城県に来ている人が何を求めているのかをもう少し詳しく知りたい。」という御意見がございました。この点につきましては、旅行者のニーズが多様化しているということは、県も同様に認識しておりますので、関係事業を通じたマーケティングの推進などにより、新たな旅行ニーズの把握に取り組んでまいりたいと考えております。

また、後段部分で「他の地域にない宮城県の魅力」に関する調査についての御意見もございました。この点につきましては、県が毎年実施しております調査事業において、「他の地域にはない宮城の魅力」に関する調査項目を追加するように検討させていただきたいと思っております。

次に2ページ目を御覧いただきたいと思えます。番号3-10、堀切川委員から「3年後に目指す姿の東北の中での宮城の姿のところで数値目標の観光客入込数7,000万人を括弧書きにし、本文に「過去最高」の文言を記載した方が良いとの御意見頂戴いたしました。この点の対応方針につきましては、プラン第3章「2-3年後に目指す本県観光の姿」の中で「宮城県に過去最高の観光客入込数が訪れており、関係者間の連携の好循環により観光産業が経済を力強くけん引しています。」という文言に修正をさせていただいております。

次に3ページを御覧ください。番号3-12になります。平賀委員からの「体験型観光という言葉プランに入れてほしい。」また、「様々な体験型観光が観光客に届いていないのではないか」という御意見がございました。この点につきましては、県といたしましても体験型観光への取組は重要と考えておりますので、プランの第4章に掲げた「4つの観光戦略プロジェクト」の具体的な取組みのうち、戦略2：観光産業の連携強化と成長促進の中で掲げております「ニューツーリズムや体験型観光など新たな観光コンテンツづくり」の施策において取組みを展開してまいりたいと考えております。

また、体験型観光などの観光資源につきましては、誘客プロモーションや各種キャンペーン事業等により情報発信に努めてまいりたいと考えております。

その他いただきました御意見につきましても同様に対応方針という欄のところを中心に記載をさせていただきます。また、プランへの反映につきましては、プランへの反映という欄のところに記載させていただいております。時間の都合上、説明の方は省略をさせていただきますので、後ほどご覧をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

次に、プランの最終案につきまして御説明をさせていただきます。資料1と資料2ということになりますけれども、今回、資料2としましては概要版を作成しております。こちらは参考ということで後ほど御覧をいただければと思います。

今回は主に資料1の最終案を使って御説明させていただきます。なお、本日は時間が限られておりますので、前回の商工業部会で御意見をいただきました中間案から追加や修正を行った部分を中心に御説明させていただきます。また、プランの表紙などのデザインや写真の挿入、こういったところにつきましても、本日の会議や次回の全体会でいただく御意見を踏まえながら、全体のバランスを見て今後調整して参りたいと思っておりますので、予め御了承をいただきますと幸いです。

まず、資料1、最終案の1ページ目をお開きください。「第1章 基本的な考え方」の「1 計画策定の趣旨」「2 計画の位置づけ」につきましては、中間案からの変更については文言の軽度な修正のみと

なっております。大きな変更はございません。

続きまして、2ページをご覧ください。「3 計画期間」であります。計画期間は、平成30年度から平成32年度までの3年間となります。「宮城県震災復興計画」における「発展期」及び「宮城の将来ビジョン改訂版」の期間に合わせていることから、本文に「宮城の将来ビジョン改訂版」の文言を追加し、各計画の期間がわかりやすいように表を挿入しております。

次に3ページをお開きください。こちらは「第2章 みやぎの観光をめぐる状況」の「1 第3期みやぎ観光戦略プラン総括」と第3期プランの数値目標の達成状況について、記載をしております。

このうち、5ページをお開き願います。5ページの真ん中のところに、⑥観光消費額がございまして。

この⑥観光消費額につきましては、第4期プランからの採用予定であります「観光庁共通基準による観光入込客統計」の平成28年の観光消費額が発表になりましたので、そちらのところを赤字で「3044」と書いてありますが、記載をしております。

次に6ページをお開きください。「2 みやぎの観光の現状と課題」というところになります。こちらにつきましては、文言の軽微な変更のみとなりますので、特に大きな変更はございません。

続きまして、8ページをお開きください。「第3章 第4期みやぎ観光戦略プランの策定に当たって」の「1 基本理念」でございまして。こちらでは東京電力福島第一原子力発電所や東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの名称を正式名称に改めるといった文言修正をしております。その他、8月22日の産業振興審議会におきまして「世界の情勢の捉え方、あるいは、観光産業の論理と方法論」という点について御意見がございました。また、笠間委員から「ICTの進化などへの対応」についての御意見も頂戴しております。その他、10月20日の宮城県議会経済商工観光委員会におきまして、「東北や宮城の域内観光の重要性」について御意見などを頂戴しております。こういった御意見を踏まえまして、朱書きの部分のとおり、御意見に対応するような文言を追加・修正させていただいております。

次に、9ページを御覧ください。「2 3年後に目指す本県観光の姿」のうち、真ん中の緑色の部分になります「東北の中でのみやぎの姿」の1つ目、「宮城県に過去最高の観光客入込数が訪れており、関係者間の連携の好循環により観光産業が経済を力強くけん引しています。」と記載しております。こちらは中間案におきましては、括弧書きで目標数値の「観光客入込数7,000万人」、観光宿泊者数「1,000万人泊」、観光消費額4,000億円」と記載してあり、この他に「観光消費による雇用効果5万4,000人」を記載してありましたが、そのうち、「観光消費による雇用効果5万4,000人」を削除しております。この点につきましては、後ほど「数値目標」の項目がございまして、そちらの数値目標のところでお説明をさせていただきます。

次に、10ページをお開きください。「3 4つの観光戦略プロジェクト」としまして、基本となる大きな4つの方針を示しております。このうち、「戦略2：観光産業の連携強化と成長促進」につきましては、8月22日の産業振興審議会において「観光産業を成長させるとはどういうことか」という御意見がございました。そのため、4行目に「生産性と」を追加しております。

また、「戦略3：外国人観光客の誘客加速化」につきましては、具体的な取組として重点市場である東アジアの他に、欧米豪などについても取り組んでまいりますので、「欧米豪などの新市場を含めた」の文言を追加しております。その他には、軽微な文言修正を行っております。

次に11ページを御覧ください。こちらが「4 数値目標」でございまして、大きな変更としましては、先ほども少し触れてありましたが、中間案では①から⑥の下に⑦としまして、「観光消費による雇用

効果」という項目がございました。これは「⑥観光消費額」による経済波及効果を雇用の面からも捉えるための産業連関表を用いて算出した理論上の雇用効果でございました。しかし、最終案におきましては、欄外に※印としまして、参考記載とさせていただきます。

変更の理由といたしましては、中間案では、雇用効果を算出するにあたり、観光消費額を元に宮城県の産業連関表を用いて算出しておりました。一方、観光庁では、国の観光消費による雇用効果を、総務省の産業連関表を用いて毎年算出しております。本県の全国的な位置づけを把握するため、国の雇用効果との比較が容易であります総務省の産業連関表による算出に改めました上で、雇用効果の算出につきましては、観光消費額に連動するものなので、目標を観光消費額に絞りまして、雇用効果については、参考値として欄外に掲載させていただきます。この他の数値目標につきましては、これまで様々な御意見をいただき、検討を重ねましたが、結果としては中間案から変更はございません。3年間の短い期間となりますが、高い目標を目指して努力してまいりたいと考えております。

次に、14ページをお開きください。「第4章観光戦略プロジェクトの具体的な取組み」につきましては、各プロジェクト毎に括弧書きの数字で表しております具体的な取組の項目でございます。それにぶら下がっている小項目につきましては、項目立てや軽微な文言修正を行っておりますが、大きな修正はございません。

続きまして15ページを御覧ください。このページ以降には、先ほど御説明した4つの観光戦略プロジェクトの具体的な取組に沿って、県または市町村で予定される個別の事業を記載しております。こちらは項目立てや各事業内容が見やすいように表の形にさせていただきました。

ページの上段に注釈を入れさせていただきますが、平成30年度以降の事業予算につきましては、県や各市町村において現在議論中でございます。現時点で掲載している事業はあくまでも計画中・構想中のものであること、また、全ての市町の事業が掲載されているわけではないということを御承知いただきたいと思っております。今後、来年以降の予算編成に伴う事業検討の進捗に合わせてプランに反映させて参りますので御承知お祈りいたします。

次に、43ページをお開きください。こちら以降には、「第5章 みやぎの観光の飛躍に向けた取組みの進め方」の「1 各種計画の連携」につきましては、平成27年10月に策定された「宮城県地方創生総合戦略」に関する記載などを追加しております。

次に44ページをお開きください。「3 各地域でDMOなどを中心とした各事業主体の連携と東北の連携のイメージ」については、大きな変更はございませんが、イラストや文言を若干修正しております。

なお、すでに組織化されている、あるいは組織化に向けて動いているDMOなどについては、具体的な名称を圏域毎に記載しております。

次に51ページをお開きください。こちらは46ページ以降、「資料」としてつけさせていただきますが、商工業部会における佐々木委員からの「東北の他県の状況を捉えるべき」との御意見を踏まえまして、「東北地方の外国人延べ宿泊者数推移表」のグラフと文言を追加しております。

最後に55ページをお開きください。こちらには「3 第4期みやぎ観光戦略プラン策定経過」及び「4 宮城県産業振興審議会第9期委員・みやぎ観光創造県民会議委員名簿」を追加させていただきます。

簡単ではございますが、説明は以上になります。本日、御審議いただく、この「第4期みやぎ観光戦略プラン」が、プランの基本理念にもございまして、宮城の「観光の再生から未来につなぐ新たな

ステージ」への指針となれますように、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。私からは、以上でございます。

#### ■堀切川部会長

ただいま、説明のあった事項について皆様から御質問や御意見を伺いたいと思います。

#### ■笠間委員

今回、DMOが中心的に動くと思うんですが、いろんな事業をやったときに、きちんとそれが継続的にやれるかどうかというところは、各組織をどのようにしてマネジメントしていくかということかと思いますが、私に関わっているプロジェクトもそうなんですけども、その場限りで終わってしまったりする原因というのは、実行組織としてちゃんと動いていたかどうかです。特に、DMOの場合は、私が知っている範囲ですと、やはりまだできたばかりということもあって、能力的なもの云々というよりは、単純に若い組織だから色んなことができないということも結構ありますので、こういった組織運営のところでサポートをしてあげると非常にいいのかなと。現場の戦術というか戦い方のところなんですけど、私に関わっているプロジェクトを考えると、組織が続くようなそういったサポートをしてあげると、数多くのプロジェクトがうまく回るんじゃないかなと思っております。

#### ■佐々木委員

前回と比較して良いなと思った点は、東アジアが主要ターゲットではありつつも、欧米豪を含めるところです。今、私、岩手県の観光に関する仕事も民間の立場でアドバイスさせて頂いていて、観光パンフレットを外注したりすると、民間の方で主導して、こういうプランとかこういう勧誘の仕方がありますという提案をさせて頂いております。行政からの委託事業に関して、今アドバイスさせて頂いているんですけれども、やっぱりみんな交通費がかからないということで、東アジアの方だけをターゲットにするということになると、東北の中でやはりパイの取り合いになります。本当に来訪者が、その県の魅力を感じているのかということではなく、交通の便ですとか、費用がミニマムなので、その方達に来てもらおうということだとやっぱり特色の出し方として差別化しづらい。本当に戦略的に宮城はそれでいいのかという検証をした方が良いなと思っていたので、欧米豪といった新たな市場の開拓というところは非常に素晴らしい文言の追加だなと思いました。

あと、もう一点ですが、DMOの話もそうですが、観光でゴールデンルートがなぜいいかということ、都会と自然と歴史というものを1つにパッケージングして、時間と費用をミニマムにして、体験と価値を最大化するという、それをやったので、分かりやすく人がお金を払ったのかなと思っています。ですので、今の場合、点がやっとなりましようみたいなプランだと思うので、どうやって面にしていくかというところが腕の見せ所かなと思いました。色んな産業の方達と連携をして、新たな魅力をパッケージングしていくというところは凄くいい点かなと思って拝見しておりました。

リクエストとして、2点あるんですけれども、1つは、前回の部会の議論でもありましたが、例えばターゲットとした国の方達が、秋保から仙台空港まで自転車で行くといった、そんな話がありました。やはりジャッジをする県の担当の皆さんがターゲットとした国の方達に対して、もう少しどういふところに価値があるのかということ、現場感覚を持ってジャッジするということが必要かなと思います。



ですので、いろいろ視察費用とか厳しいと思うんですけども、逆にこっちから他国へ行って見て、宮城県と何が違うのかというところをきちんと捉える機会というのは、担当の方こそ必要ですね。外部に委託して、民間の方達に提案してもらった時に、それが本当にいいプランかどうかをジャッジする側も同じ目線に立っていないんじゃないかなと思うと、みなさんこそ、ターゲットとする国をより深く知ったほうがいいかなと思うので、やりくりは大変かと思いますが、ぜひ文化を知る、その土地を知る、逆に観光客になって、ターゲットとなる国へ行ってみるということを、リクエストとして入れて頂きたい。

あと、もう1点のリクエストなんですけど、どうしても県の予算なので、県の皆さんが推進していくプランが、主体として入っていると思うんですけど、今、私がお隣の民間企業から御依頼を頂いて、宮城に入ってきた方達を岩手に持って行くにはどうしたらいいかという、そういう企画会議もさせて頂いているので、民間の会社達が広域で何か企画をしているようなものに対して、例えば宮城県が一部協力しますとか、県の方が後援につきますとか、予算を使わずとも、何か県の情報ですとか、ネットワークにおいて、民間主導のものを応援していきますよっていう、そういう立場を宮城県は取るというようにして頂くと、今まで見えてこなかった民間での面白い動きや情報が吸い上げられてくるのかなと思います。やはり、東京で情報発信したりとか、大阪の方で東北の企業が販売会をする時に、PRしていただくフロントとなる機会がすごくあると思うので、そこにお金を出していないけど、把握している民間の面白い情報を発信するといったことを宮城県が率先していただけますと、民間の応援にもなりますし、県を超えた取組のワンストップでの収集というか、情報が欲しければ宮城県に聞けばいろんなことが分かるというようなイメージ戦略も非常に大事だと思いますので、お金をかけず、知恵を出しつつやる部分も必要なかなというように考えます。計画に文言として盛り込んでいただけるかどうかは別として、考え方として、視察の件とそういう民間を応援するというスタンスについて、リクエストをさせて頂きたいと思います。

#### ■堀切川部会長

観光施策に長く関わる可能性のある方にとっては非常に有効だと思います。今、御意見のあった民間の取組をもっと支援、協力して県と連動することにつきましては、いかがでしょうか。

#### ■経済商工観光部 吉田部長

とても大事なポイントだと思っておりまして、実は観光交付金という制度を国が始めて、東北に40億円強の割り当てが純増で増えたんですね。それ以来、民間の事業者の皆様からの提案が爆発的に増えました。こういう事業やったらどうですか、こういう事業を我々はやっているんだけど一緒にやりませんか、というご提案をたくさんいただきました。さすが凄いなと思ったんですけど、それまでは我々は知らなかったんですね。そういう提案があるということを知って、そうすると我々の頭も相当刺激を受けまして、それだったらこういう方向を打ち出すといいんじゃないかとか、次のステージに施策の立案が上がっていくきっかけを頂いたような、そんな気がしております。ですので、今頂いたようなヒントですと、民間の方が考えていらっしゃることを御支援しますよというスタンスをお見せして、御提案がたくさん上がってくるような状況を作ると、その上がってきた提案で素晴らしいと思ったものは、今度は我々が様々な情報媒体を使って発信させて頂き、さらにはコミットして一緒にやるようなものも出てくると思いますので、相当、効果が高まるのではないかとお聞きしました。

何か工夫して、そういうことを続けていければいいかなと思います。観光交付金って物凄く巨額なお金に反応した部分がありますので、そこまではさすがに県としてやりきれないところもあるんですけども、似たような仕組みは、参考にして作っていいのではないかなと感じたところです。

#### ■堀切川部会長

ちょっと思い出したんですが、昔、前いた大学で大学の理工系の先生がよく海外に国際会議で行かれるんですけど、その時、若手の事務職員の人を連れて行って海外の大学のキャンパスを見てもらおうということやったことがあって、一度そういうところを見ると、まともな大学の立派なキャンパスですけど、一度見た事務職員の人はびっくりされて、今その人が大学のキャンパスの整備とか全部計画立案しているんですね。やっぱり百聞は一見にしかずで、他所の取り組みを体で体験していくっていうか、それはやっぱり効果があるだろうなという気はいたします。

ありがとうございました。続きまして、それでは、高橋委員よろしくお願い致します。

#### ■高橋委員

3連休明けまして、台風で2週、3週と泣かされましたが、この連休は本当にお客様が全国からお越しになって、この宮城の素晴らしい街並みと、そして紅葉が本当に綺麗な時期にこの連休がぶつかりまして、達成感で一杯で今日参加しておりますが、外国人の方が大変多かったというのも、この連休の印象でございます。アジアの方々、欧米の方々、大変多くなってまいりまして、間違いなく2020年へ向かって、日本への注目度が、また、東北への注目度も高まってきているんだなと感じていると共に、仙台空港の外国人の皆様方の降り立つ数も増えてきておりまして、今、外国人の方が凄く多いなと空港に行っても感じていますので、仙台を入り口として、東北を回る、また、東北から北海道とか東京とか、そういう回るようなルートがどんどん出来てきているのかなということと、また、飛行機の便も多くなってきているなという確実な感覚も得ながら、東北宮城が観光においてさらに発展するために、DMOというまだまだ宮城県内は弱い、そういった組織を作っていくというお話はとても賛成で、私自身も4月に秋保を中心としたDMOを立ち上げたばかりでございます。ただ、立ち上げただけではやはりだめだということで、その先が本当に大事だと感じております。そして、そこで、立ち上げただけではなくて、お金を稼ぐというそういうきちんとしたベースを作っていくなくてはならないので、どう小銭を稼ぐかという仕掛けづくりを今現在している状況です。また、作ってから、地域の土壌となるという考えで、若い人達を中心となって作るわけですけども、地元の人達との連携ですとか、あとは、小銭を稼ぐためのいろんな作戦とか、そういったものはなかなか他の皆様方の知恵を借りないといけないということ。あとは、ぜひそこに県の皆様方の長く携わる人でしたり、機関でしたり、そういうお力があると、もっともっと連携が強くなって、そのDMOだけではない大きな力となって地域をまとめていけるんじゃないかなと感じております。

また、担当とか変わっていくと思うんですけども、長く地域を愛してもらえて、一緒にお酒を飲んだり食事をしたり、寝泊まりするくらい住み込んで頂けるくらいの思いでやっていくような、そんな将来、宮城の観光ネットワークというものが作り上げられたらいいんじゃないかなと思っております。色々県を出まして全国を回りますと、関西の方とか、北海道の方とか、観光で生きているという、そういう土地に伺いますと、地元の人達、又は受け入れ側の我々のようなメンバーとともに、皆様のような県の

職員の方々が、本当に一緒に熱い想いでチームを作ってもらっしやるなどということを凄く感じますので、これからの宮城には、そういったところがプラスされると、この最終案というのも輝かしいものになるのかなと思っております。

また、交通の部分で、宮城県、仙台に住んで観光業をしておりますと、交通案内とか交通状況のお伝えする、そういった情報が少し不足気味かなと感じております。仙台駅に降り立った時に、地下鉄の乗り方がわからないということ、先日10月末に仙台駅の構内でイベントをした時に、外国人の方にお声がけ頂いて、バス・地下鉄、そういう乗り方が少し案内が不足しているのかなというのを感じました。また、空港と市街地を結ぶようなバスでしたり、そういった定期便に関しても、まだまだ空気を乗せているようなバスもあるんですが、秋保もそうなんですけれども、もっともっと発信をして頂いてもいいことではないかなと思っております。私たちだけでは、発信力が弱いものですから、ぜひ、県を挙げてそういう交通の部分の情報発信というのが伝わることで、外国人の方もそうですけれども、日本の観光客の皆様へも優しい宮城県の観光っていうのが、作り上げていけるのではないかと思います。また、交通と一緒に関わることはありますけれども、道路標識や看板等の整備など、私自身、秋保に居て、様々な観光看板ですとか案内を変更したり新しく作ってもらいたいという、そういう働きかけをしたことがあるんですが、観光地なので、観光地を管轄しているどこそこっていういろいろな申請をする場所があるかと思うんですが、道路に関して、あとは、そこが山の崖だったり、いろいろ土地が絡んできますと、申請することが大変多いのと、また、それを1から全部御説明にあがらないと、なかなか進まないというのが観光地ですらあるものですから、この観光戦略プランの中に、ぜひ、そういう観光地の整備というところで、スムーズなルートができるといいのかなと思います。平泉さんは、街並みとともに、お店の色、自動販売機の色、自宅の壁の色ですとか、細部まで統一感を持ったお客様が喜ぶような観光地のまちづくりというのを、学校も含めてやっておりましたので、そういうものが将来できるような流れが作れると、街の色というのも変わってきますし、歩く観光客も楽しい、遊び心があるような、そんな観光地が作れるのではないかなと思っております。いろいろ部署があるのは重々承知なんですけれども、とにかく看板設置するだけでも大変な想いをした経験があったもので、ぜひその辺りはご検討頂きたいと思っております。以上でございます。

#### ■堀切川部会長

ありがとうございました。外国人50万人が目標なので、確かにそういうインバウンド向けの整備というのは、多分色々取り組まれておられるし、地域によっても頑張っているところがあると思うんですけど、せっかく3年間のプランなので、できるだけ、あたまの前半の方でそういうところをすぐできる整備が進めばいいのかなと思いますが、県の方はいかがでしょうか。

#### ■経済商工観光部 吉田部長

まち全体で、イメージが統一されているようなまちづくりというのは、平泉も大変素晴らしいなと思いました。世界遺産に登録される、申請するという一連の動きの中で、整備が加速したように感じておりますので、様々なタイミングを捉えて呼びかけ、そして、看板、道路標記などについて、一緒に加速度を増していくことが大事かなと思っています。県としては、一応、ファーストステージは、仙台から松島のエリアを集中的にやりましょう、セカンドステージは沿岸部を集中的にやりましょうということ

で、看板等の外国語表記について、それから、W i - F i の整備等について進めてきたところなんです。ただ、対象数が物凄く多いということもありまして、集中的にこのエリアをやろうねっていうような決め方で、順次進めさせて頂いているので、なかなか県内あまねくまではやりきれていないなという想いも持っておるところです。あと、バスの話がありましたので、2次交通のバスがとても大事だと思っております。秋保にも今、仙台空港から便が出ました。また、平泉そして松島にもバスが出ているんですけども、確かに乗客の方はまだ多くはないんですね。周知して乗って頂くようになるまでに、相当なプロモーションが必要と感じておりまして、今回、朗報だったのは、スカイマークさんの神戸便が飛ぶようになりましたら、スカイマークさんにプロモーションしたところ、関西圏の方がバスに乗ってくれるようになったんですね。ですから、どのように動いて頂くのか、どのような方に利用して頂きたいのか、それから、広く知っている方を増やすために、我々は様々な手段を使って、例えばSNSも効果的だと思うんですけども、大体、スマホで調べますからね。そこにちゃんとヒットするような出し方をしていきたいなと思っておるところです。

### ■観光課 千坂副参事

系統的な所というお話になりますと、例えば、2次交通を知って頂いて、「交通機関としてこういうものがあるんだ」ということで、乗って頂けると考えておりまして、そういった意味では、実際に運行する上で知って頂くというところをどのようにやっていったらいいだろうか。それにプラスして、お話を伺うと外国人の方、支払い方法をどうしたらいいのかがよくわからないとか、そういった1つの壁みたいなものがあると伺ってましたので、そういったところを1つ1つ潰していけるような施策展開っていくところを進めていければなっていうふうに思っておるところです。

### ■堀切川部会長

ありがとうございました。それでは、続きまして、畑中委員よろしくお願ひいたします。

### ■畑中委員

私は製造業であり観光のことは分からないんですけども、前にも話したとおり、工業と観光、農業と観光、どういうふうに繋いでもらえれば、もっと農業も活かされていくのかな、工業も仕事を通じて、観光に寄与するところあるのかなと考えると、私自身あまり答えを持ってないんですけども、ぜひそういうところも考えながら進めて頂きたいなと。特に私、農村に住んでおりますので、結構、農地組合法人等が各地にできるようになってきて、作るだけでなく、お客様と接するところに、喜びややりがいを感じるようなところもあればいいのか、どちらかという、普通の生産所が比較的あまり収入的には恵まれない部分が多いのではないかなと思う。この辺、そういうものと繋がっていくと、全体の人の移動も増えていくんじゃないかなと思います。

それから、3連休に国内需要も増え、海外からもお客さんが来る。交通インフラの部分で、本当に大丈夫なのかな、計算したとおり、いろんなところを回って見られるのかなと思うと、若干まだいろんな所で、もしかしたら交通事情が非常に厳しくなるところもあるんじゃないかなと、そういうピンポイントで、特に紅葉シーズンだけでも、お客様に来てもらうために気持ちよく移動してもらうための作戦も何か考えなくてはならないのかなと思っておりました。大変私は勉強になっています。ありがと

うございます。

#### ■堀切川部会長

ありがとうございました。やっぱり、交通インフラで全県全部どこにでもちゃんと行けるというのはなかなか難しいんでしょうけど、かなり整備は三陸の方、津波の後、道路が延びてきました。

#### ■経済商工観光部 吉田部長

南部の道路が相当進みましたので、気仙沼まで日程が確定したっていうのは、我々行政の目から見ると、画期的な、あと何十年後だろうと思っていたのが、あと1、2年っていうところまで来たものですから、凄く進んだなという印象はあります。

#### ■堀切川部会長

三陸道路が上までいっちゃうと、今度は内側とのアクセスもどんどんよくなっていく整備ができるので、オール宮城としてやって行ければ良いのかなと期待をしておりますので頑張って下さい。ありがとうございます。それでは、続きまして、平賀委員よろしく申し上げます。

#### ■平賀委員

お疲れ様でございます。素晴らしくまとめてあるので、凄くよかったと思っております。特に私からわからない用語解説が凄く大変助かっております。その中の58ページの上から2番目のFAMトリップというところ、そこをもう少し重点したらいいなと思いました。要は、個人もいいんですけど、旅行企画とかそういう会社さんに、もう少し情報を流す方法を1つ考えてみたらいいかなと思いました。少し情報が足りないと思います。つまり、今のお話を聞いていても、いつまでやるとか、どのくらいとかが全然なくて、そこにもし良かったら、何分くらいかかったら到達できますとか、そういうちょっとした細かいところ、交通事情によって変わりますが、目的地まで大体何分かかるとか、そういった表示などがあれば、旅行者の人達は見やすくなるんじゃないかと思いました。外国の方、ずいぶんいらしゃってるなと思ったんですけど、どこに行ったらいいかわからないというお声がたくさんありまして、私の店にもお尋ねになって、ここの店に行くにはどう行ったらいいんだ、ということでお話がありましたので、それと共に、もう1つ、宮城県は東北の要ですね。ここからどこかに行きたいっていう、いわゆるもっと簡単に景色なしで線と字と、分かりやすい示唆ができないものかと思いました。そうしないと、行きたいんだけど、分からないというお声があったので、もし良かったら、この線に乗っていくと何分くらいというふうなことをご案内できたらいいなと思いましたが、やはりもう少し、私たちは、自信を持って、宮城県から各県にお客さんを送ってあげようというくらいがあってもいいかなと思いました。

もう1つ、この街の銀杏が綺麗な時はいつだとか、どこにありますとか、そういったものが実際にあるので、その時期をもし良かったら細部で案内できるものがあればいいと思いました。そういった時期をお知らせしてあげるということを誰にやるのと言ったら、FAMトリップです。そこに行かないと、ここでいくら協議したことを字においてあってだめだと思いました。それを簡単に線で、点でお書き頂ければ良いと思います。サインは、前から言っておりますので、道路標識に関してはまだまだ足りない

ってというのは分かりますけれども、そういったものをぜひよろしくお願ひしたいと思いました。まとめ方が素晴らしいので、今後ともよろしくご指導下さいませ。ありがとうございました。

## ■堀切川部会長

ありがとうございました。たぶん、一番最初の頃のたたき台から比べると、充実してきて、リフォームもされているので、非常に分かりやすく、読みやすく、全体像が掴みやすくなったなという感じがいたしました。私は、この間、開かれました県民会議の時に、自分の意見をいっぱい言ってしまいましたので、今日は、比較的省略するんですけど、実は、先週後半、石川県の能登町っていうところまで、役場に頼まれて、田舎まで行ってきたんですが、なんとなく観光が気になるので、いろんな人にいろんなことを聞いてきたんですけど、北陸新幹線ができて金沢が一番変わったのはホテルが乱立したこと。その結果、1泊の宿代のレートが上がってしまって、極めて宿泊費が高くなった結果、石川県民が週末に金沢に遊びに行くと、ホテルに泊まるというのが全くなかったということで、日帰りで皆さん戻られるそうで、金沢市一極集中型になったという評判を聞いてまいりました。結果的には、観光客が全く来ない過疎エリアがいっぱいできてしまって、有名なところにだけいくもんですから、県を挙げて観光が盛り上がっているという感じがなくなったと、観光客が来ない街の方々がいっぱいおっしゃっていました。いろいろ見聞きしてくると、仙台は大きな街ですが、宮城県は、観光地があちこち綺麗に分散して、海、山にあるので良かったなと個人的には思ったところです。これから大変だろうなという感じでした。ホテルがいっぱいできた頃に、観光客が来なくなるという心配をしていると言われていたので、拠点の都市があった時に、そこから各観光地にどう繋いでいくかというところがうまくやらないと大変なんだなというふうになってきたところです。観光地じゃないところの方が、海の幸はあるということで、委員の皆様からご意見いろいろお伺いいたしました。言い足りなかったなという方おられましたら、追加でお願いしたいんですが、笠間委員はやや短めに最初お話をされてましたが、流れを見て、言い足りないところがありましたら、ぜひお願いします。

## ■笠間委員

先程、平賀委員からFAMトリップの話が出て、これはいい視点だなと思ったのが、学会であるとかイベントの後にエクスカッションみたいなかたちというのは、他の地域又は他の国ではよくあると。学会とか行かれると、もしかしたら、学会内のエクスカッションのページがあったりとか、見たことがあると思うんですが、今、宮城県内、他県も含めてなんですが、いろんな観光コースを作って、コースを造成しますというのをやると。それが大体、自治体単位に作られて来るわけですね。ところが、そうすると、せっかく造成したコースとかのプログラムがバラバラに各地の観光協会さんにあったりとかして、それを買う側からすると、情報が分散してしまっているんで、宮城県で当然、観光でエクスカッションが企画する側としたら、「秋保に行きたいし、いや、作並も」とか、「鳴子も」とか、いろんな結構広域で検討すると思うんですが、その全部、情報が分散してしまっているというのがあって、そういう意味では、せっかく各自治体様とか観光協会が一生懸命作った観光コース、造成したものがBtoBという形でサイトなのか、資料なのかわかりませんが、情報集約をしていくような、そういうような工夫があると、せっかく作ったものが結構有効活用されるのではないかと。せっかく作っても自分たちで広報しなきゃいけないし、バイヤーさんになかなか見て頂けないというところもあると思うので、今回の事業

の中で、例えば、インターネット広報事業とか、地域イメージ確立推進事業とか、そういったものもありますので、この中に、どちらかと言うとB to Cということで、一般消費者の皆様へ情報発信するんだと思うんですが、実際に旅行商品を作る側の人達向けのB to Bの情報発信をする方法というのを考えると、もしかしたら、成果がもう少し見えやすく、出やすくなるんじゃないかなというふうに平賀委員のお話を聞いていて、思いついたところではございました。

## ■堀切川部会長

ありがとうございます。ちなみに、個人的な話ですが、あと3年後くらいに仕方なく国際会議を仙台でやらなきゃいけないくて、実行委員長をやっているんですけど、一番面倒なのがエクスカッション。外国の方がいっぱい来るみたいで、お好みが皆さん違うものですから、この企画を誰と相談してどう進めるとおいしい構図ができるのか大体3つくらい用意しないと叱られそうなんですけど、海・山・温泉全部いきたいって人が必ず出てくるんですよ。だから、これが、極めて大変なんですけど、できればエクスカッションのツアーコンダクターをやりたいなど。ある意味、選択肢が多いので、悩んでしまう面もあるんですよ。作戦としては、ショートで半日コースから1泊2日で回りきるというのと、2種類用意しようかなとか思っているんですけど。そういう時に、あそこ行って相談するといよいよというのが、大体お願いする旅行代理店になってしまうと、どんどん提案が来てしまうので、これからなんですけど、そこら辺の時にあそこに行くといよいよという場所があると確かに便利だなという感じはします。相談料無料の場所が欲しいというのが本音でございます。確か、私よく覚えてませんが、宮城の観光条例みたいなのがあって、県民一体となつてやるとなっているかと思うんですけど、あれがあるおかげですごくいいと思うのは、宮城県の観光の戦略がでる時にどこかを外すということをしなくて済むというか、そこがあるというのは、私は大きいとっていて、非常に行きにくい場所もいっぱいありますけど、どこの地域もずっとケアしながらやっていくぞという感じに、あれでなれるというのは大きいかなと思います。どうしても数値目標とか、お金・人数の目標値ができてしまうと、そこを行きやすいところだけ力が入ってしまうところがどうしてもあるかなと思うんですけど、オール宮城でやっていくのが一番いいなと思っておりますので、3年間の実行がうまくいくと期待しております。

ちなみに、県民会議で申し上げた気分だけ申し上げると、せっかくだったら、3年間の最初の年度の頭の方で、キックオフ的な花火が上がるような事業を1つ入れて頂いて、ムードを盛り上げて頂ければいいなということをお願いしました。例えばですけど、全ての県内の市町村から観光のイチオシのポスターを全部出して頂いて、ポスターのコンテストを1階のロビーで、綺麗なパネルに入れて並べたら凄いだらうなと勝手に思っていますということをお願いしました。やっぱり、そういうのがあると、宮城県は力が入っているなというのがわかるのと、そこで市町村それぞれがエントリーしてくると、それぞれの役場の人のモチベーションの意識が変わってくるので、3年間の走り方がオール宮城で走れて楽しいかなと思ったりしたということをお願いしたところでございました。たぶん、この後、最終的には、産業振興審議会の全体会で、さらに最終的に採まれていくことになると思いますが、この商工業部会のところ、本日頂いた御意見をもとに、また、最終案がよりいいものになるよう調整が入って、全体会に行くのかなと期待したいと思っています。目標時間がもう少しあるんですけど、言い足りないという方おられませんか。

## ■笠間委員

先程、佐々木委員から海外の事例とか海外の視察とか結構重要で、これは国内でも同じかなと思っておりまして、実は、先々週、台風の最中、九州に出張に行きまして、何しに行ったかという、宗像・大島オルレコースを見に行こうと思って、このプロジェクトに関わったこともあったので、一日中いてと思っていたら嵐が来てしまって、船が出なかったのが結局、宗像神社だけ見て帰ってきてしまいました。ただ、やはり九州の方は、いくつかのコースが今もう既に作られているようなかたちで先行しているというところがあります。そうすると、これから、我々、宮城県がやろうとなると、どうしても後発になってしまうということですので、ここは戦略としては、概ね基本的にこれで全然問題ないと思うんですが、いざ戦う時には、やはり差別性ということで、それをやっていく必要があると。今回の計画の中では、かなりマーケティングという言葉がよく出てきて、マーケティングの概念が入っているのは非常に素晴らしいと思いますので、マーケティングをやるのであれば、例えばいろんなプロジェクトで打ち出すようになると思うんですが、他の地域との差別性をどういうふうに出すかということ、たぶんコンペでいろんな会社さんが出してくれると思うんですが、ただこれがいいよってということだけではなくて、そういった差別性という観点で、おそらく個々の事業とかをきちんと打ち出していきようにやっていくのがよろしいのかなと思っておりました。

## ■堀切川部会長

ありがとうございました。そういえば、金沢の情報をもった時に、新幹線が出来たというのがあって、観光客の人数がぐんと上がったわけですけど、NHKの連ドラ「まれ」が終わりましたら、やっぱり落ちたらしいんですが、落ちても元よりは遙かに高いレベルでキープされていたという話でした。たぶん、そのことから、勝手な推測なんですけど、青森県が急に今観光で、成果をどんどん出しているというのが、知事の露出が増えてきたということもあるんですが、基本的に新幹線の新青森駅ができてから、ベースのラインが上がったのかなというふうに思っています。新函館・北斗まで新幹線が伸びてしまって、函館に全部取られるっていう危機意識を相当前から持っていて、手を変え品を変え、電車の中で酒を飲めるような列車を走らせたりとか色んなことをやっているの、青森が急に増えたというよりは、今まで新幹線が盛岡・秋田で止まっていたので、たぶん、観光過疎地だったところが、導線が入ってきてベースが上がっただけかなというふうに思っていますので、たぶん、あれからぐんぐん伸びるとい感じではないのかなと思うんですけど、それでいくと東北は、これで全ての県に新幹線が走るかたちになりましたので、観光客が来やすい最低限の線は、もう導線があるという、新幹線が走っているというのをベースに各県が協力するところは、協力しながら、しかし、スルーされたくないというのが本音なので、ここは難しいですね。東北6県全体でやりましようと言いながら、できれば宮城で止めたいなという感じがあるので、そこの作戦をいろいろ考えなきゃいけないのかなと思います。ちなみに、青森県は津軽海峡を挟んで函館と海峡連携と称して、あそこは函館とだけ組むと。北海道と組む気はないという言い方をしていました。函館は、実はあの後、新幹線が札幌まで仮に将来延びた場合におかれるっていう危機意識が凄く強いということで、札幌を見ずに青森と連携するというので、仲良くなっている風情がありまして、そういう活気もあって、青森・函館の方に、少し人が流れているのかなという気は致しました。彼らを飛行機で帰らせずに仙台で止めるという作戦があってもいいかな。ということで、そろそろ時間となってまいりましたので、この議事（1）で頂いた貴重な御意見は次に活かすとい



うことで終了とさせていただきます。

## (2) その他

続きまして、議事(2)その他に入りたいと思います。事務局の方では、その他、特にご用意しておられないようなんですけど、各委員の方から、何かありますでしょうか。特にないようでしたら、これで、この議論の部分、議事については、終わらせて頂きたいと思います。

## 4 閉会

### ■観光課 佐々木主幹

堀切川部会長ありがとうございました。本日お話いただけなかった御意見等がございましたら、電子メール、電話などどのような形でも構いませんので、事務局あてに御意見いただけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、長時間でございましたが、以上をもちまして、第10回宮城県産業振興審議会商工業部会を終了させていただきたいと思ひます。皆様ありがとうございました。

以上